

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890200363		
法人名	株式会社 湘南みどり園		
事業所名	グループホーム花樹ひたち ユニット名(わくわくBユニット)		
所在地	茨城県日立市日高町2-7-10		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 1 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyvoCd=0890200363-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスミビル4階
訪問調査日	令和2年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設や職員の都合に合わせてではなく、利用者の思いに寄り添い、一人一人のペースに合わせ、「ゆったりの心」で、心のこもった介護することを目指している。職員一人一人が、認知症の理解とケアの仕方を深く学び、実践していけるよう、レベルアップを図っている。利用者のできることに目を向けて、その力を発揮してもらうことで、個々人の自立を支援していく。日々の日常の中で、より刺激となり、楽しみとなるようなイベントを企画し、利用者を楽しんでいただいている。日々、手作りの家庭料理を作り、満足していただけるような食生活を送っていただいている。家族が安心できるよう、面会時や電話、メールなどで生活状況などを説明し連携を図っている。新型コロナウイルスの感染拡大により、ご利用者様、ご家族様には、よりストレスのかかる状況となっているが、今後も、できる限りのケアをさせていただきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の駐車場や建家の周りに花樹を植えて、グループホームの名称にふさわしい環境づくりをしている。
ユニット毎に別メニューの献立を作成し、利用者好みの味付けや調理方法により食事が楽しみとなるよう工夫されている。
看護職員のもとで利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援するとともに、医療関係者との情報交換や相談に努めている。また、入院した利用者がADLが下がって施設に戻ってきた際も、口腔ケアをはじめとした退院後のケアを職員で話し合い、その支援により以前の元気な利用者に戻った例があげられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各ユニットに掲示し、日々目を見て、実践につなげている。また、新人教育において、事業所の理念の大切さを説明し、日々、業務に生かすよう、職員にも促している。	朝礼時に確認するとともに、各ユニットに掲示して意識づけを行っている。「ゆっくりの心」を大切に、家庭にいるように、それぞれの利用者のペースで過ごすことが出来るように支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	去年は、地域のボランティアの方にも来ていただき、地域の方との交流も積極的に行っていた。本年は、新型コロナウイルス感染防止の観点により、外部との交流は控えさせてもらっている。	現在はコロナ禍で中止しているが、普段は地域の祭りに参加したり、近隣の公園を散歩して住民と交流する等している。保育園児と年1回の交流も行っている。管理者は近隣住民との付き合いに気を配り、良い関係作りをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症の方の支援方法に関する事例報告や認知症ケアの取り組みなどを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年は、新型コロナウイルスの影響により、運営推進会議を書面会議にて行っている。その際に送られてきた意見を参考に、サービスに生かすよう努力している。	新型コロナウイルス感染防止対策のため、委員が一堂に会することがないように、各委員に資料文書を送付し、事業所の活動報告を行うとともに、意見をもらう形をとっている。身体拘束やコロナ対策などの内部研修や話し合いについて報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などを通じて、市町村担当者と連携をとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みなどを積極的に伝え、協力関係を築いている。	市の担当課と情報交換を行ったり、運営推進会議（現在は書面会議のため）の報告書を渡すなどしている。市主催のセミナーに参加するほか市の介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を行い、職員全体に身体拘束をしないケアの実践の重要性を理解していただいている。	法人内の身体拘束廃止委員会で、勉強会を3ヶ月ごとに定期開催しているとともに事業所では各利用者の事例検討をしている。マニュアルが作成されている。年間研修計画に基づき内部研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する研修を行うとともに、施設内にて虐待がないよう、声掛け見守りをスタッフ間で行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、職員の内部研修などでも成年後見制度などを学ぶ機会を作っている。また、成年後見制度の利用を始めたと利用者様もいるので、そうした研修で学んだことを活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族とは、契約の締結などにおいて、十分な説明を行い、理解納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族等が、気軽に意見、要望などを言える雰囲気作りをしている。意見、要望などをもとに、皆で検討し、具体的に運営に反映をしている。	日常的に話しやすい雰囲気づくりをすとも、家族等が面会に来訪した際に話を聞き、意見を引き出すようにしている。現在は面会方法等に配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を聞く機会があり、話しやすい雰囲気作りをしている。職員全員にアンケートを実施している。個別の面談を行うこともある。毎月の全体会議やユニット会議においても皆で意見を出し合い、検討などもし、運営に反映している。	毎月の職員会議とユニットリーダー会議で意見を出し合って話し合っている。職員のシフトに関する低減や備品購入、レクリエーションやケアの仕方などの意見があり実践に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が、職員と個別に面談を行うこともある。職員全体にアンケートを行い、意見箱を設置している。代表は、神奈川、東京を拠点にしており、新型コロナウイルスの感染拡大により、感染防止のため、しばらく茨城には来ていないが、連携を取り合って運営を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議の後に、必ず何らかの研修を行っており、また、新人職員の研修もその都度行っている。外部研修は、本年度はほとんど開催が中止されていて、参加できていないが、ネットで開催される研修などに申し込み、内部研修でも使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に別の事業所のグループホームの職員にも毎回、参加いただいている。グループホーム連絡会、懇親会などにも参加し、交流を図っている。本年、認知症市民フォーラムにも参加させていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からお話を伺ったり、毎日の行動などから、出来るだけ意向を取り入れるよう日々努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設に来られる際にも、ご家族へのお声掛けに努め、ご家族からお話を伺うようにしている。また、必要があれば、サービス担当者会議なども行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族もそうだが、まずご本人の意向を第一に考え、サービスの支援を考えている。本人、ご家族が望む暮らしをヒアリングをし、それを支援につなげられるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、時にはこちらから相談をさせてもらったり、尊厳ある存在として一人一人と接している。日常生活の中で、出来ることなどはお声掛けし、手伝っていただけるよう働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を共に支えていくチームのメンバーとして考えている。なるべく家族の方には、本人の日常の生活状況を話すように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本年は、新型コロナウイルスの発生により、ご家族様との面会や外出の制限などをさせていただかなければいけないような状況が出てきてしまい、大変申し訳なく思っている。また、電話やネットを介しての交流の支援もさせていただいている。	入居時に本人及び家族等からのアセスメントにより、把握している。コロナ禍で制限が出てしまっているが、信仰している宗教の教会へ礼拝に出かけたり、家族等と外食や外出を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が互いに協力しながら行ったりもしている。ご利用者様が不穏になった際も、ご利用者様どうして自発的にケアの声掛けをすることがある。	一人一人の性格、行動をきちんと把握をし、レクリエーションなども全員で楽しめるものを行っている。アクティビティなども利用者が互いに協力しながら行ったりもしている。ご利用者様が不穏になった際も、ご利用者様どうして自発的にケアの声掛けをすることがある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後であっても、必要があれば、ご本人様、ご利用者様の相談支援などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ家と同じように暮らせるよう、ご本人の意向を聞きながら、暮らしていただいている。ご利用者様との信頼できる関係づくりをしている。	利用者の自立支援を目指し自分のやり遂げたい目標(例えば行きたいところや食べたいもの)を「ドリームプロジェクト」との名のもと、職員と思いを共有して実現のために支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様にアセスメントし、生活歴などを把握するようにしている。それぞれの居室に、馴染みのものを自由に置いていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	皆一緒ではなく、ご自身の体調や気分も日によって違ってくるので、ご本人が無理をしないよう見守りをしている。バイタルサイン、表情、言動、睡眠状態、排泄、ADL、QOLなどで、本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントをし、サービス担当者会議にて話し合いを行ったことなどをケアプランに反映している。ご家族様にも、サービス担当者会議に参加していただいたり、連絡を取り合ったりする中で、意見を取り入れた計画を作成している。	毎月利用者毎に看護師のユニットリーダーが、介護計画と連動した内容の観点から状況を記録して、6か月ごとに評価を行っている。家族等には電話や来訪時に説明をして、確認印をもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送り、連絡帳記入内容、Ipadの特記事項をもとに見直しをしている。記録においては、できるだけ本人の言った言葉をそのまま書くよう心掛けている。ケア方法の見直しをスタッフ間やご家族様と話し合っ、検討し決定している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の利用者様の変化に応じ、迅速かつ柔軟な支援を行い、利用者様が円滑に生活できるようなケアを心掛けている。柔軟な支援を行えるよう、ご家族様やスタッフが相談しやすい環境づくりを心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、地域資源を活用できなくなっているが、その中でも、自身の持てる力を発揮できるような支援に努めている。コロナの感染が落ち着いたら、再びボランティアなどを通して、歌、楽器演奏、踊り、紙芝居、習字など、心豊かに生活する支援を行ってきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望されている病院に受診していただいている。訪問診療を受けられているご利用様は、月二回のペースで、定期的に往診していただいている。本人の状態は、家族へ報告しながら、往診医へも伝えている。	家族等や利用者の希望で医療機関を決めている。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。医師には利用者の施設での状況やバイタルを、文書化して持参し情報共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化はナースに報告し、迅速で適切な対応をしていただいている。個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。問題は共有できるよう、連絡ノートなどを活用し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族から情報をいただいたり、直接面会に行った際や電話連絡などで、病院関係者との情報交換や相談に努めている。入院になった際は、サマリーを提出している。現在は、コロナのため、面会に行くことは遠慮させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、ご家族様に書面にて確認している。退院する前、退院後に話し合いを持ち、本人、家族の気持ちを尊重しつつ、施設でできないことを説明し、理解していただき、その上で、ご家族様の判断にゆだねることにしている。ご家族様が疑問に思うことは、その都度説明し、話し合いを持つようにしている。	契約時に看取りについての説明をし、医師から家族への説明があったときに、再度話し合いをして同意を取っている。看護協会主催のオンライン上での研修へアクセスして、重度化した利用者への対応を学び、職員は看護師を中心に年1回内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、各ユニットに置くようにしている。緊急対応した際には、その実践を今後に生かすようにしている。インシデント、アクシデントは、皆で共有するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練などを実施し、地域住民や消防署なども連携をとり、協力体制を徐々に構築している。	夜間や地震、台風など様々な想定をした避難訓練を行い、訓練後は反省会を行っている。備蓄品を保管しているが一覧表を作成するまでには至っていない。	災害に備えた備蓄品の一覧表を作成し、職員間で共有を図るとともに備蓄品の消費期限を管理することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各個人の生活歴なども考慮し、一人一人に合ったお声掛けをしている。本人が、混乱しやすい状況や、落ち着かない状況を作らないよう、お声掛けをしている。時にふさわしくない言葉かけや対応をしている場合は、スタッフ同士で声掛けをしている。	管理者は職員に人生の先輩である利用者にプライバシーに配慮した言葉遣いや日々の支援を行うよう指導し、職員はそれらを配慮しながら信頼関係を築くようにしている。肖像権に関する同意書を整備するまでには至っていない。	法人本部の了解のもと、肖像権に関する同意書を検討することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	十分に配慮し、無理強いや絶対しないよう心掛けている。入浴時の衣類の準備は、決定する前にご本人に聞くようにしている。何事においても自己決定は利用者にしていただくよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ自由に個人個人のペースで生活をしていただくようにしている。移動が車椅子の方は、行きたい場所に自分で移動できない場合もあるので、言葉かけを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着過ぎなどに気を付けながら、洋服に関しては自由に選んでいただいている。マニキュアを塗るなど、楽しんでいただいている。オールインワンジェルを使用したり、薄化粧などをしてご利用者様や、通販にて洋服を注文されているご利用者様もいる。本人の希望に沿った支援をするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	薄味を心掛けながら、その中でも美味しく食べていただける工夫をし、見た目でも楽しめるよう、彩などにも気を付けている。片づけは、毎回、利用者と一緒にしている。皆様より、「この食事は美味しい」とおっしゃってもらえている。現在は、月一回の外食会はできていないが、その代わりにテイクアウトなどを利用し、ご利用者様に楽しんでいただいている。	ユニット毎にメニューを替え、利用者の希望に沿った食事を提供している。誕生会には利用者から希望を聴いて提供している。職員も利用者と同じ食卓に着いて同じ食事を摂っている。コロナ禍で外食ができない為、テイクアウトなどを利用して食事が楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者、一人一人の状態に合わせて、調整をし、健康に心掛けている。定期的な往診により、採血等も行い、毎月体重測定も行っている。夏は水分を多めにとっていただいている。入浴後も、水分は必ず摂取していただいている。身体に影響がない場合は、利用者様本人の声を聞き入れ、ご飯の量なども調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをご自身でできる方はしていただき、介護が必要な方は、サポートしながら行っている。問題がある場合は、家族の同意をもとに歯科受診をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方も立位が可能で、全員トイレでの排泄を心掛けている。夜間帯もオムツを使用している人はいない。夜間帯、車椅子の方なども、声掛けにてトイレ誘導などしている。	利用者の仕草などから察知して、ベースに合わせた声掛けと誘導をこまめに行い排泄の自立支援を行っている。退院後紙おむつでも、職員の支援で紙パンツへ移行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖、オリーブオイル、長芋、モロヘイヤなどや食物繊維が豊富な食事を摂取していただき、できるだけ自然に排便が促されるよう支援している。毎日の朝の体操も行っている。下剤を服用されている方も多いが、個々人の消化器の状況により、内服コントロールもし、いつ出たのかチェックもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は、それぞれ決まっているが、無理強いせず、体調や気分等も考慮し、楽しく入浴できるよう工夫している。職員配置の都合上、夜間帯の入浴は行っていない。	入浴は基本週2~3回、午前中としているが、利用者の希望に沿っていつでも入れるよう支援している。ゆず湯などの季節の湯や入浴剤を使用して季節感が味わえるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネンの清潔を心掛け、その日の体調などを考慮し、適度な休息をとっていただいている。昼夜逆転しないよう気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬について、質問がある場合は、薬剤師に聞くように努めている。下剤に関しては、服用しない日もあるので、内服したかどうかチェック表を用いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴、現在の状態、本人の意向を考慮し、気分転換を図ってもらっている。イベント、レクリエーション、アクティビティ、食事など、皆が楽しめるよう支援を行っている。コロナウィルス感染拡大の中、出来ることをスタッフで工夫をし、少しでも楽しんでいただける場を提供するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は出来ないが、ドリームプロジェクトなどで、利用者様一人一人が行きたい場所などを聞き、それに向けて計画を進めていきたい。時には、外の景色を眺めたりするドライブレクレーションを取り入れ、ストレスなどを発散していただいている。	職員と一緒に近くの公園へ散歩に出かけたり、ドライブで紅葉狩りやお花を觀賞し、公園でお茶を飲んで帰るなど、利用者の希望に沿って、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人管理の下、お金を所持していただいている利用者もいるが、基本的には必要性がないので、個人でお金は所持していない。もしお金が必要な場合があれば、説明し、こちらから建て替えて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、電話をしていただいたり、手紙も書いていただいている。親戚の方との手紙のやり取りを定期的にされている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔、清掃を心掛け、エアコンを適切な温度に設定している。季節の野菜の収穫もしている。毎月、その季節に合ったお花を使用したフラワーアレンジメントも行っている。また、窓からは、常に花や野菜が見られ、目で癒されたりもしている。本人の不快や混乱の原因になるものがあれば、その原因を取り除くようにしている。	玄関には利用者の書道作品や敷地内に咲く季節の花が品よく華やかに生けられている。居間兼食堂は窓が大きく、日差しを取り込んで明るく開放的な空間となっている。居室の掃き出し窓からは草花や家庭菜園のある中庭の景色が心を和ませてくれる。各所の椅子で思い思いに休憩したり寛ぐことができる。リビングには七夕やクリスマスなどの季節ごとの飾りつけをして職員と利用者が一緒に楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にご自身の居室で休んでいただいたり、席なども利用者の意向を取り入れ、その時に応じて変えている。リビングでは、皆で仲良くお話をしたり、一緒に歌ったり、遊んだりなど、楽しく過ごしていただいている。また、静かに本を読んで過ごされている方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の過ごしやすいよう、使い慣れた家具などを持ってきていただき、自由に配置していただいている。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、クローゼットなどが備え付けられている。利用者はそれぞれに使い慣れたもの、好みの物を持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の性格やADLの度合いをきちんと理解をし、それぞれに応じた生活ができるよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム花樹ひたち

作成日 令和 2年 1月 3日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害に備えた備蓄品の一覧表を作成し、職員間で共有を図るとともに備蓄品の消費期間を管理する。	消費期限のチェックはしているが、きちんとした一覧表を作成していなかったため、早急に作成し、管理を行う。	早急に備蓄品の一覧表を作成し。職員との共有を図り、備蓄品の消費期限の管理を行う。	3ヶ月
2	36	肖像権を含めた個人情報に関するご家族様の同意書が整備されていない。	前回に引き続き、肖像権を含めた個人情報に関するご家族様の同意書を作成すべきかどうか、検討する。	代表や藤沢の施設とも連携をとり、今後も引き続き同意書作成の具体的な検討を行う。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。